

教育の原理

『人は皆、よりよくなろうとする存在である』

老若男女、人は皆、よりよくなろうとする存在である。様々な環境により、それが素直に出せない場合もあるが、意識的、無意識的にかかわらず、よりよくなろうとする存在であり、このことを支援することが、教育の営みである。

教育方針

『自立と貢献』

学校教育は、学校で完結しない。児童が将来、一社会人として立派に自立し、国や郷土、自分の周囲に貢献できる資質を身に付けさせる場である。

そのことを目指して南葛西第二小学校の教育を推進する。

学校経営方針

1 【文武両道】 質の高い「知・徳・体」の実現

➡ この具現化は、次の3点（学習指導、生活指導、学校組織）のよりよい運営に集約される。

(1) 学習指導

① 授業力の向上

⇒ 児童が学校生活で一番長く過ごす時間である。この時間を充実させ、「学力保障」の責任を果たし、結果を出すことは、教師の本務中の本務である。

② 補充学習の充実

⇒ とは言え、一斉指導の授業では、多様な児童がいる中、学力定着には限界がある。従って、放課後等の時間に、個別の補充学習を実施することにより、基礎基本の学力定着を確実に図る。

③ 数値による対応

⇒ 具体的な数値から学力定着の「効果測定」を行い、その結果を分析しながら、個々の児童の学力の課題を明確にし、効率的な補充学習等を実施する。

(2) 生活指導

① 健全育成の充実

⇒ 平素の生活指導を重視して共通実践し、教員・職員の連携と統一行動により実現する。特に、「話の聴き方」や「あいさつ」、「自他のよさを見付ける力」を重点事項として徹底するとともに、上級生の行動が、下級生の模範となるよき校風の一層の定着を目指す。

② 迅速な対応

⇒ けがやトラブル、問題の発生時に、先手を打って迅速に対応する。管理職への報・連・相を確実にし、保護者への連絡を密にし、学校の安全・安心、信頼を損なわないようにする。

⇒ 管理下でのけがは、首から上のは軽微なものでも直ちに管理職に報告し、担任・副担任（専科）や養護教諭は、保護者へ迅速に情報共有する。（児童が帰宅後、保護者へけが等の話を伝えていのに、学校からは何も連絡がないということがないように）

③ 体力向上と健康教育

⇒ よりよい生活習慣の定着には、体力向上は欠かせない。生涯にわたる健康作りに努めることのできる「運動好き」で「食事の好き嫌いの少ない」（フードロスを減らす）児童を育成する。

(3) 組織運営

① 職層に基づく運営

⇒ 学校組織では、職層に基づいた責任があり、責任があるから権限がある。学校組織全体として、より効率的な運営を行うため、法令・規定に基づいた職務行動で職責を果たす。

⇒ すべての意思決定は、決裁により行う。また、対外的に発出する文書等は、より信頼性を高めるため、教員・職員は必ず管理職の決裁を受けてから発出する。（電子文書も同じ）

② チームワークの重視

⇒ 人は皆、個々に思想・信条を持っている。しかし、職務上重要であるのは、同じベクトルを向き、職種を超えた「共通実践・統一行動」である。校長のリーダーシップの下、各々の持ち場でチームワークを発揮し、効率的で効果の上がる学習・生活指導、学校運営を実現する。（校長一人をつまみとする「鍋蓋組織」の解消）

③ 臨機応変な対応

⇒ 問題が発生し、解決が求められる場合は、年度途中でも臨機応変に組織を変更・対応する。

④ 前例踏襲の打破

⇒ 現代社会は変化が激しく、学校教育にも時代に見合った大幅な改革が求められている。活動の意義を0ベースで常に見つめ直し、同じ事業であっても改善を図り、前回より効率的でよりよいものを計画・実施する。

⑤ 働き方改革への対応

⇒ 現在、学校職場には働き方改革が強く求められている。「効率的で持続可能な学校運営」を目指し、学校改革を積極的に推進する。

2 保護者目線からも考える学校運営

(1) 保護者とともに児童を育成

⇒ 養育義務の第一責任者は保護者である。従って、保護者のよりよい理解と協力なしに、児童へのよりよい教育は成立しない。保護者がどんな思いでいるのかを感じられる教員・職員でありたい。

⇒ 良質な教育サービスを提供することと、保護者の言いなりになることとは同じではない。保護者に助言したり、時に指導したりすることも教育サービスの一環である。

⇒ PTAを通じた前向きで建設的な意見には、できる限り応えていく。

(2) 謙虚さを兼ね備えた教員・職員に

⇒ 南葛西第二小学校の教員・職員は、児童の前では自信に満ちた指導者として、また、保護者や地域の方々の前では、常に学ぶ姿勢と謙虚さを持って対応する。

3 すべては真に児童のために ～12・15の春を笑顔で～

⇒ 学校において、「児童を大切にする」とは「児童にしっかり学力を付ける」ということである。初めて世の中から評価される現実「12・15の春」を笑顔で迎え、「選択できる人生」が歩めるよう、南葛西第二小学校の教員・職員は、本務中の本務である「学力保障」を最優先事項と考え、よりよく児童を育成する。そのために英知を結集し、経営方針の下、効率的な学校運営を実現していく。